
ICTを活用した喫茶サービスの学習でキャリア発達を促す

喫茶サービス

キャリアマネジメントハンドブック

2018. 3. 26

岐阜県立郡上特別支援学校

サービス班

目次

はじめに

1 「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス

～ICTツールを効果的に活用した生徒主体の喫茶営業～

喫茶サービス実践のためのノウハウ	4
接客支援アプリ	5
会計支援システムとレジアプリ	8
振り返りツール	10
手順動画や手順表等の支援ツール	11

2 キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデル

～振り返りツールとしてICTを活用した課題解決的な学習展開と支援～

授業モデルの概要	12
事前学習	13
喫茶営業後のミーティング	14
事後学習	15

3 「キャリア発達評価表」によるアセスメントと評価

～生徒個々の内面的・社会的な変化を捉えキャリア発達を評価～

キャリア発達段階表を活用した適切なアセスメントと

強みを生かした役割・支援の明確化	16
「キャリア発達評価表」によるキャリア発達の評価	16
キャリア発達を促す「キャリア発達評価表」活用事例	17

巻末資料（1～8）	20
-----------	----

関連ワード説明	35
---------	----

参考文献 監修・編著



はじめに（本ハンドブックの目的と特徴）

本ハンドブックは、特別支援学校高等部の作業学習において、ICTを効果的に活用してキャリア発達*注1を促す「喫茶サービス」の学習支援を行うための、1つの提案書です。H26年度からの4年間の実践研究を通じて、その効用を検証し、コミュニケーション能力の育成やキャリア形成において、ある一定の成果が得られました。それにより、皆さんに活用していただける汎用性の高い喫茶サービスの実践モデルとして研究成果をまとめ、ここにご提案させていただくものです。

ICTを効果的に活用することで、障がいの状況にかかわらず、全ての生徒が活躍し、主体的に役割を果たしながら喫茶サービスを学習することができます。また、喫茶サービス営業場面だけでなく、事前学習、事後学習を含めた一連の課題解決的な学習展開を通して、生徒の心理的・社会的変化を生むとともにキャリア発達を促し、特別支援学校卒業後の自立*注2につなげることを目指すものです。

本ハンドブックでは、①ICTの活用をベースに「誰にでもわかる・できる」生徒主体の喫茶サービスを行うためのノウハウ、②喫茶サービスを課題解決的に学習することができる単元構成とICTを活用した学習展開、③キャリア発達が促されているかを観点にした授業評価の方法を「キャリア発達を促すICTを活用した喫茶サービス授業実践モデル」としてまとめました。

また、本ハンドブックは、パナソニック教育財団、岐阜県情報技術研究所、バーチャルメディア工房ぎふ、情報科学芸術大学院大学、日本福祉大学、ソフトピアジャパン、郡上市社会福祉協議会など、様々な研究機関等にご協力いただいで作成したものです。ここに、ご報告いたします。

*注1/2については、巻末後の関連キーワードを参照してください。

「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

喫茶サービス実践のためのノウハウ

整えるべき3つのICT環境

喫茶サービス実践の中心は、「接客」です。ゆえに、大前提として、「接客サービスに必要な5つのポイント（2014、岐阜県教育委員会）」を満たす、お客様をもてなすための接客が求められます。ICTツールを活用することで、接客としてある程度の「おもてなし」の水準を保ちつつ、障がいの状況にかかわらず、すべての生徒が活躍し、キャリア発達を促す喫茶サービスを実現することができます。

接客サービスに必要な5つのポイント

- ① 機敏さ
- ② 親しみのもてる礼儀正しさ
- ③ 正しいサービス
- ④ お客様を待たせないこと
- ⑤ お客様をもてなす努力

喫茶サービスを実践するために整えるべきことは、以下の「3つのICT環境」であると考えます。

- 1 接客支援アプリ
- 2 会計支援システム（レジアプリ等）
- 3 手順動画や手順表等の支援ツール（PowerPointにより管理）

上記の3つが整備されていることで、喫茶サービスにおける役割のほとんどを、生徒が主体的に遂行することができます。もちろん、生徒の実態は様々であり、全てをICTで補う必要はありません。生徒の実態を的確に捉え、生徒のキャリア発達を促すために個々に必要なICTツールを教師が見極め、整備することが重要です。そして、整備した上で、生徒自身が、必要な時機・瞬間に、必要な支援思考ツールだけを選択し活用すればよいのです。例えば、比較的知的障がいが軽度の生徒であっても、人とのコミュニケーションに苦手意識の強い生徒にとっては、接客支援アプリやレジアプリが接客手順をアシストしてくれることで、記憶や知的認知能力の助けとなり、接客に対する気持ちのゆとりが生まれ、接客時に使う決まった言葉ではない自分の考えをお客様に伝え対話するなど、対人コミュニケーション技術をさらに高めることにつながったという成果も上がっています。

次ページからは、3つのICT環境について、その整備・活用方法について詳しく述べていきます。

「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

接客支援アプリ

全ての接客手順をナビゲーション



「接客支援アプリ（次頁参照）」は、タブレットPCにインストールして活用します。接客支援アプリは、注文を取る場面だけでなく、注文を取るまでと、注文を取った後の業務手順まで含めて、同じアプリ内で全ての接客手順をナビゲーションしてくれます。接客の仕方をアシストすることで、基本的な接客について効果的に学習できます。また、接客時に使う言葉を記憶しなければいけない負担が軽減され、余裕を持って、お客様を意識した接客を行うことができます。

接客支援アプリの特徴は、以下の6つです。

- 1 吹き出し表示による接客時に使用する言葉の明確化と行動の色別化
- 2 飲料名のアイコン（イラスト・写真）表示
- 3 ミスをタップで容易に修正できる構造
- 4 理解度に合わせたモード選択
（ノーマルモードとエキスパートモード）
- 5 日替わりデザートの種類を変更できる構造
- 6 こまったボタン

接客支援アプリでは、お客様のお出迎えから飲み物の提供までの接客手順について、接客の言葉や行動が手順通り画面に表示され、接客手順を忘れても画面をタップすれば、次の行動や接客時に使う言葉が表示される構成になっています。飲料名のアイコンをタップすることでオーダーを入力（修正）でき、レシートプリンターからオーダー表がプリントアウトされるシステムになっています。また、吹き出し表示やアイコン表示、ミスをした時や困った時にも対応できる自信を損なわせない構成により、「誰にでもわかる、誰でもできる」をコンセプトにした、とても汎用性の高いアプリです。

【接客支援アプリ活用において準備するもの】

Androidタブレット	市販のAndroid端末で利用可能
接客支援アプリ	GooglePlay Storeでの一般公開をカスタマイズ
Windowsソフト	岐阜県情報技術研究所で開発した、印刷サーバーアプリ
レシートプリンタ	80mm以上のロール紙を使用する感熱方式
WindowsPC	WindowsXP以降で無線LAN接続可能な端末
Wi-Fiルーター	情報機器の情報の中継機器

「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

接客支援アプリの手順

通常モード		
12注文確認	13全員確認	注文の最終確認
<p>テーブル番号:1 こまごま?</p> <p>お待たせ、いたしました。</p>  <p>ホットコーヒーを注文されたお客様さま。</p> <p>こまごま? 飲み物をお出します</p>	<p>テーブル番号:1 こまごま?</p> <p>お待たせ、いたしました。</p>  <p>オレンジジュースを注文されたお客様さま。</p> <p>こまごま? 全員に出しました</p>	<p>テーブル番号:3 こまごま?</p> <p>ご注文は以上でよろしいですか?</p> <p>良ければ伝票を置きます。 こちらは、伝票でございます。 お帰りの際に、レジまでお持ちください。 ごゆっくり、どうぞ。</p> <p>完了</p>

エキスパートモード		
①迎え入れ	②注文画面	・①、②と進むとすぐに通常モードの⑥にジャンプします。
<p>こまごま?</p> <p>お客様の人数を確認します。</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9</p> <p>ご案内するテーブルを選びます。</p> <p>1 2 3 4</p>	<p>ご注文は こまごま? お決まりですか? お再席: 1人</p>  <p>注文の確認(3個)</p>	



「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

会計支援システムとレジアプリ

バーコードで読み取りお金のイラストをタップ



「接客支援アプリ（次頁参照）」は、タブレットPCにインストールして活用します。接客支援アプリは、注文を取る場面だけでなく、注文を取るまでと、注文を取った後の業務手順まで含めて、同じアプリ内で全ての接客手順をナビゲーションしてくれます。接客の仕方をアシストすることで、基本的な接客について効果的に学習できます。また、接客時に使う言葉を記憶しなければいけない負担が軽減され、余裕を持って、お客様を意識した接客を行うことができます。

接客支援アプリの特徴は、以下の6つです。

- 1 バーコードを読み取ることで自動計算する構造
- 2 お金のアイコン（イラスト・写真）表示
- 3 ミスをタップで容易に修正できる構造
- 4 商品を変更・追加登録できる構造
- 5 困ったボタン
- 6 リアルタイムで売り上げが分かり一日の総売り上げを部門別集計できる構造

会計支援システムでは、バーコードスキャンにより自動で合計金額が表示され、お客様が支払った現金と同じ札・硬貨のアイコンを選択すれば、おつりも自動で計算されるシステムです。会計手順及び会計時の言葉も表示されるため、写真のお金と現金のマッチングができ、ひらがな程度の文字が読める生徒であれば、会計処理ができる仕組みになっています。また、レジアプリ内にも、『困ったボタン』が設置してあります。

さらに、リアルタイムでの飲食数と売り上げ金額が分かるほか、その日に会計報告ができるポスシステムも備えています。部門別に自動集計した結果をレシートプリンターでプリントアウトすることができます。

【会計支援システム（レジアプリ含む）活用において準備するもの】

Androidタブレット	市販のAndroid端末で利用可能
iPad	iOS版 App「レジアプリ」
レジアプリ	Android版
バーコードリーダー	USB、BluetoothでAndroid PCと接続できるもの
キャッシュドローア	DKD制御インターフェイス
レシートプリンタ	80mm以上のロール紙を使用する感熱方式
WindowsPC	WindowsXP以降で無線LAN接続可能な端末
Wi-Fiルーター	情報機器の情報の中継機器

「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

レジアプリ

ディスプレイをタップする方法とバーコードリーダーを利用する方法があり、どちらも同じ流れになります。

Android版

① お客様が買いあげた商品を入力する。



② 請求する金額を伝えます。



③ お客様が支払った代金をタップします。



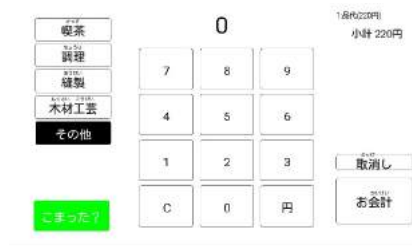
④ お釣を返します。



⑤ 環境設定画面でひらがな表記等の変更。



⑥ 金額を直接入力することができます。



iOS版

① お客様が買いあげた商品を入力する。



② 請求する金額を伝えます。



③ お釣を返します。



④ 売り上げを集計ができます。



⑤ 商品の価格が変更。



⑥ エプソン製POSプリンタに対応。



「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

振り返りツール

『カイゼン』を促す積極的な支援思考ツール

「振り返りツール」は、複数の情報機器を活用して、改善を積極的に促す支援思考ツールです。

Webカメラ	定位置に固定し、店内全体の様子を録画することができます。営業後のミーティングや事後学習で、動画を視聴し、目標に対しての行動確認や改善すべき姿の振り返りをすることができます。
Good Shot	タブレットPCにインストールしてある「Good Shot」を用いて、PC画面のWebカメラのライブ映像画面を遠隔でスクリーンショットする機能です。 アプリの項目が、「いいね」「チェック」「注目」という項目があります。「いいね」は、生徒の主体的な活動で、「注目」は、即時評価に繋がる活動、「チェック」は、様々な活動に改善が必要な活動にタップします。
超短焦点プロジェクター	机面にホワイトボードフィルムを敷き、写真、映像を投写し、様々な角度から囲んでみたり、手元の空いたスペースでも映し出すことができます。22inchから最大80inchまで投写することができます。
360度カメラ	360度の映像を記録することができます。喫茶営業で混み合う時間帯に撮影することでイレギュラーな出来事や仲間がどのようにコミュニケーションしているのかが分かります。VRゴーグルと併用すると個別の課題に注目することができます。
超短焦点小型プロジェクターのタッチパネル	壁や床がスマートスクリーンになります。投影された映像に触れると再生やストップが可能になります。360度カメラで撮影した動画を投射することで、見たいところのカメラアングルをタップで動かすことができます。今まで確認できなかった視点に着目することができます。

【振り返りツール活用において準備するもの】

タブレットPC	WindowsXP以降で無線LAN接続可能な端末
スマートフォン	VRを動作するためのハイエンドモデルの端末
VRゴーグル	動作するスマートフォンのディスプレイに対応したゴーグル



4Kの360度カメラ

据え置きディスプレイベースのVR



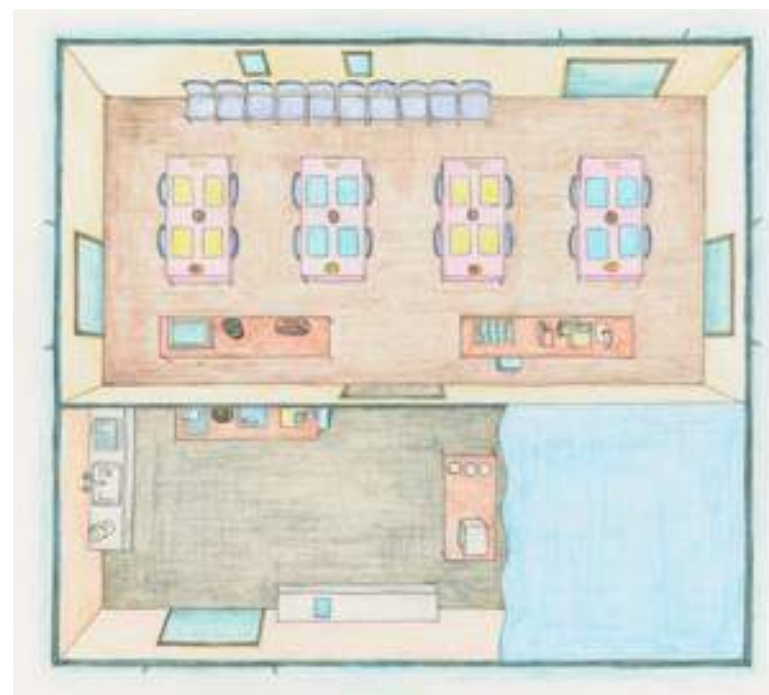
「誰にでもわかる・できる」喫茶サービス実践

手順動画や手順表の支援ツール

役割毎に必要なデジタル化された支援ツール

喫茶サービスにおける生徒の役割に合わせて、仕事の手本となる動画や手順表をタブレットPCで確認できるようにデジタル化された支援ツール（表1）として制作します。個々のタスク処理に応じて、必要な時機・瞬間に、タブレットPCで自由に閲覧できるようにMicrosoft PowerPoint、Keynoteに整備します。「喫茶会場の平面図（図1）」から、支援ツールを活用する場所の□をクリックすると、手順動画や静止画・手順表を表示できるシステムです。手順動画は、生徒が分かりやすいよう、本人視点の一貫した構図で撮影してあります。生徒は、自分の必要な時に自分でタブレットPCを操作し、支援ツールで手順を確認することで、自信を持って主体的に役割遂行することができます。また、複数の教職員が関わる場合、一定の手本があることで、伝え方の品質均衡を保つことができます。

【図1：支援ツール閲覧画面】



【デジタル化された支援ツールの一覧表】

厨房	ケーキ切り分け動画	紅茶の淹れ方動画
	食器の洗い方動画	コーヒーメーカーの使用法動画
バリスタ	コーヒーの淹れ方動画	
ホール (接客)	接客手順動画	テーブルセッティング静止画・動画
	テーブルの片づけ方動画	レジの手順動画

キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデル

喫茶サービスの授業モデル概要

ICTを効果的に活用しキャリア発達を促す喫茶サービス

キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデル（図2）として、「事前学習→喫茶営業（当日ミーティング）→事後学習」の一連の課題解決的な学習の流れ（単元構成）で、ICTを効果的に利活用した学習を展開しています。

事前・事後学習では「Webカメラ等で録画した映像を活用した学習」を中心に、一斉学習、個別学習、グループ学習といった様々な学習形態をとりながら、教師と生徒、生徒同士の気付きと対話を通じた課題解決的な学習を行っています。喫茶営業当日は「喫茶サービス実施中にタブレットPC等で撮影した動画による即時評価」、当日の「終礼時の映像視聴とミーティング（気付きの交流）」により、個々の生徒が適宜自分を見つめ、主体的役割の遂行ができる課題解決的な学習を行っています。

【図2：喫茶サービスにおける授業モデル】
喫茶サービスにおける授業モデル



【キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデルで必要となるICT環境】

Webカメラ	接客場面全体を定点撮影します。
Goodshotアプリ及び端末	Webカメラで録画している様子を表示したPCの画面をキャプチャする機能があります。アプリをインストールできれば、どんな端末でも活用できます。
タブレットPC	接客場面を即時に記録撮影するための端末です。
ポータル超短焦点プロジェクタ	動画を机上に広げたホワイトシート等に投影できます。
集音マイク	会場全体の音を録音することができるマイクです。

喫茶サービス

特技を生かしてフルート演奏



キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデル

事前学習

強みに着目した適切なアセスメントと活躍できる役割設定

事前学習では、喫茶サービスの基本的な考え方、コンセプトについて学習した上で、模擬喫茶の場面を作り、体を動かしながら学習します。（学習支援案：巻末資料1）生徒側の視点では、役割が遂行できるように事前に学習し、目標設定するまでを事前学習のゴールとしています。教師側の視点では、生徒の強みに着目した適切なアセスメントに基づき、全ての生徒が活躍できるよう、一人一人の実態に合わせた喫茶サービスの役割のシュミレーションでのイメージ化をゴールとしています。初めての生徒でも、いろいろな役割が経験できるように、限られた授業時間で分かっていく過程を補助するICTツール（接客支援アプリ、レジアプリ、手順動画等）を整備します。特に、接客については、事前学習で全員が体験し、一通りの接客ができるように学習します（表2）。事前学習の中で、いろいろな役割を経験した上で、生徒に合った活躍できる役割を決定します。生徒は、自分の役割が決定すると、プリント（巻末資料2）に役割と目標を記入します。

<表2 2時間で接客ができる手順>

15min	タブレットの使い方、接客アプリのコマンドをタップし、どのようなG I Uなのか知る。
30min	模擬喫茶の場面を作り、実際に接客アプリを使って接客する手順を確認する。
30min	生徒一人で接客し、接客している様子をタブレット端末のカメラで録画する。録画した動作を視聴し、生徒自身のしぐさや台詞を確認する。
45min	実際の喫茶で接客をすることで、接客の基礎を学習することができる。

模擬喫茶で接客練習



サービス業のプロから接客アドバイス



レジアプリで会計の練習



【別紙資料】

- ・事前学習学習支援案（略案） 巻末資料1
- ・事前学習プリント 巻末資料2

キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデル

喫茶営業場面

主体的な役割遂行 始め・終わりのミーティングでの振り返り

喫茶営業当日は、5～13ページに記したように、実際の喫茶営業場面で、支援ツール（接客支援アプリ、会計支援システム、手順動画等のコンテンツ）を活用し、生徒が主体的に喫茶サービスを実践します。（学習支援案：巻末資料3）営業中には、課題が表出したり、良い姿が見られたりする場面について、タブレットPC等を用いて記録撮影し、その場で生徒が動画を見ることで即時に評価し、生徒と教師の対話の中で、自ら自分の課題や成長に気づき、より伸ばそう、改善しようとしています。そういった客観的評価と対話の繰り返しの中で、生徒それぞれが主体的に役割を遂行し、「やればできる」「役割を果たせて満足だ」という充実感を積み重ね、役割に自信をもち、キャリア発達が促されていきます。

また、喫茶営業終了後には、個々で始めのミーティングで立てた自分の目標に対する振り返りを作業日誌（巻末資料4）に記録した後、全員で、ポイントとなる接客場面の動画を視聴し、「終わりのミーティング」を行います。仲間の良い姿はどんな姿であったか、仲間と協力できたか、安らげる落ち着いた喫茶であったかなどについて、仲間と意見を交わし合います。短時間のミーティングですが、営業日当日に振り返ることで、率直でリアルな評価を交流し合うことができ、後日の事後学習につなげることができます。

まとめると、喫茶営業の授業は、以下の順に展開します。

- 1 喫茶会場準備
- 2 はじめのミーティング（日誌記入、目標録音）
- 3 喫茶営業
- 4 喫茶会場片づけ
- 5 おわりのミーティング（日誌記入、動画視聴による振り返り）



1年生のみ初めての喫茶営業



営業直後の即時評価の動画視聴

【別紙資料】

- ・喫茶営業支援案（展開）
- ・作業日誌

巻末資料3
巻末資料4

キャリア発達を促す喫茶サービスの授業モデル

事後学習

Webカメラで録画した動画による振り返りと対話

事後学習では、Webカメラで録画したVTRを視聴し、振り返りを行います（学習支援案：巻末資料5）。動画を活用しやすくするための教師用アプリとして、Webカメラで録画している様子を表示したPCの画面をキャプチャする機能がある「Good Shot」というアプリを活用しています。再度動画を見直すことなく、キャプチャ時間をたどっていくことで必要な場面の頭出しをすることができ、即時にその瞬間の出来事が振り返りやすくなりました。Webカメラで録画したホールの様子を、ポータブル超短焦点プロジェクターにより、机上のホワイトシートに移し、生徒の動きやポイントとなる注目してほしい箇所にマルや矢印を付け、「仲間と協力できていたか」「やすらげるおちつける喫茶であったか」「個々の課題に対してどうであったか」について、生徒と教師、生徒同士の対話により課題解決的に振り返りを行います。それを学習プリント（巻末資料6）に記入し、次の喫茶サービスへの課題を明確にします。

【別紙資料】

- ・事後学習 学習支援案（略案） 巻末資料5
- ・事後学習 学習プリント 巻末資料6



改善点が分かった瞬間

活躍する姿を振り返る



『キャリア発達評価表』によるアセスメントと評価

キャリア発達段階表を活用した適切なアセスメント 強みを生かした役割・支援の明確化

喫茶サービスの「事前学習」において、喫茶の役割と必要な支援について、「キャリア発達評価表（巻末資料8）」の「実態」「支援（ICTも含む）」欄に記入します。生徒の実態については、事前学習だけではなく、発達検査や他の学習面、生活面での実態も把握した上で、日常的な観察を参考にし、強みに着目した適切なアセスメントを行い、記入します。支援については、「主体的に役割を果たすために必要な支援（ICT利活用を前提とするがすべてではない）」と「効果的な支援の時機・瞬間」を明確にし、記入します。



お客様アンケートから自己評価

『キャリア発達評価表』によるキャリア発達の評価

キャリア発達は、個々に促されていくものであり、その評価についても、個々の事例を通して個別的に評価するものと考えました。そこで、生徒個々の「キャリア発達評価表（巻末資料5）」を作成して、評価します。動画検証による評価を中心としますが、それを補う客観的指標をチェックしていくことで、個々の段階をレーダーチャート化された「キャリア発達段階表（巻末資料7）」を参照します。「動画で見る姿」「生徒の主観的な記述や語り」「お客様や教師の評価」（お客様アンケートを活用：巻末資料9）時系列に蓄積し、それらを基に生徒の内面的変化を推察します。その上で、キャリア発達段階表を参照しながら生徒の内面的社会的変化を質的に捉え、「キャリア発達評価表」としてまとめることにより、キャリア発達が促されているか事例毎に評価します。

【別紙資料】

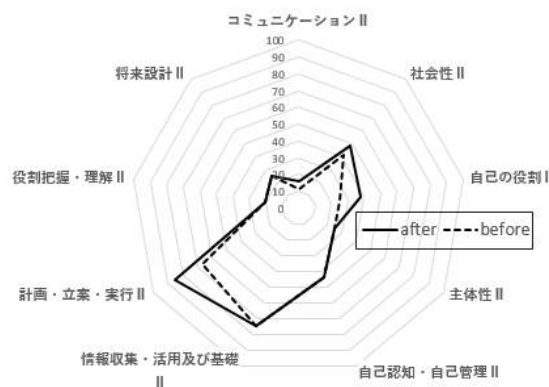
- ・「キャリア発達段階表」 巻末資料7
- ・「キャリア発達評価表」 巻末資料8
- ・お客様アンケート 巻末資料9

『キャリア発達評価表』によるアセスメントと評価

キャリア発達を促す「キャリア発達評価表」活用事例

生徒Aの場合 キャリア発達段階表及び動画からアセスメント 強みを生かした役割へ

高等部3年生のAは、2年生の時に接客（ホール）を中心的な役割として行っていた。Webカメラの録画映像から、注文を取る際、最初に来客した人数をカウント後に客が追加される予想外のことが生じると、どのように対応したらいいのかわからなくなる姿が見られた。接客支援アプリの「困ったボタン」をタップして助けを求めることはできるが、状況を説明できず、困惑した表情になることが多かった。Aは、キャリア発達段階表（以下、段階表）によると「計画・立案・実行力」「情報収集・活用能力」の値が高く、自分の役割や目標が明確だと様々な情報を活用して主体的に動くことが分かった。また、「コミュニケーション」「社会性」の値が低く、TPOに応じた言動の難しさがあることから、接客ではなく、「バリスタ」の役割に変更した。バリスタの役割の中にもいくつかの仕事があるが、役割をより限定し、「ホールで珈琲を淹れる」役割のみに変更した。そうすることで、テーブルに備えてあるミルク等を客の使用に応じて補充したり、客が帰った後、自分で気付いてテーブルの片付けをしたりする姿が見られるようになった。また、動画で振り返る中で、教師や仲間から評価されることで、より意欲的に活動できるようになった。Aにとって分かりやすい役割になったことで、気持ちに余裕ができ、考えて行動できるようになったと考えられる。周囲を俯瞰する力とともに、「社会性」が育ちつつある。キャリア発達の段階をグラフ化したレーダーチャートは、その屈性度合いが明瞭であれば、強みが明確にわかり、強みを生かした役割を厳選することができる。強みを生かすことで達成感や意欲が生じ、自信や余裕につながり、強みを伸長するだけでなく、キャリア発達全体を促すことにつながった。



生徒Bの場合

接客手順の完全ナビゲーションでコミュニケーションの力へ好機

高等部1年生のBは、自己の考えを言葉で紙に書いたり、話をしたりすることに時間を要し、思いを瞬時に伝えるのが得意である。初めて接客した時も、接客支援アプリの行動と接客時に使用する言葉の完全ナビゲーションによって、手順が分かり、安心して一人で接客をやりきることができた。「ゆっくりハキハキと話したい」「笑顔で話したい」とB自身が目標で述べ、接客時に使用する言葉や手順を覚えることに終始せず、接客に必要な表情やコミュニケーションについて重点的に学習することができた。段階表から見ても、当初は全面的に低い値を示していたが、アプリを手がかりに接客を繰り返すことで自信が生まれ、初めて会う客からの問いかけにも答えたり、適切な対応で用件を伝えることができるようになり、「コミュニケーション力」が向上した。お客様アンケートからも、落ち着いて、聞き取りやすい声で、とても丁寧な対応という講評があがった。



体験した思いを映像から言葉へ

『キャリア発達評価表』によるアセスメントと評価

キャリア発達を促す「キャリア発達評価表」活用事例

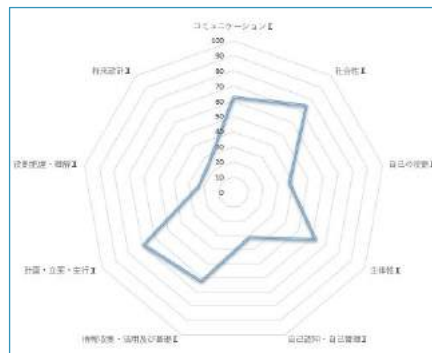
生徒Cの場合 喫茶支援システムで主体的な喫茶営業へ

高等部1年生のCは、言葉の言い間違い等の認知処理上の課題はあるが、接客支援アプリのアシストがあれば、スムーズに接客をすることができる。初めての喫茶営業であっても、周りの状況をよく見て、自分で気付いてテーブルの片付けをしたり、時間が空いた時は「何かやることありますか」と積極的に仕事を求めたりする姿があり、「主体性」「社会性」が高い。しかし、自己肯定感が低く、高評価を受けても否定する傾向にあった。

喫茶営業では、喫茶支援システムを活用することにより、リアルタイムの売り上げ数がPC画面で確認できたり、ホールのWebカメラのLive映像をパントリーでモニタリングできたりする。Cは、パントリーにいる時もホールの様子を気にかけ、モニターで時折確認し、お客様が帰ると自分からテーブルの片付けに行くことができていた。また、お客様が少なくなると、売り上げ数をPC画面で確認し、見込みで準備してあったケーキセットの数と照合し、「よし、あと10人!」と自分から店の外に出てチラシ配布に向かっていった。状況把握が得意で主体的に動くことのできるCにとっては、自分の知りたいタイミングで状況確認できるICTのサポートにより強みを発揮しやすくなり、より主体的に接客ができるようになった。接客担当としての活躍は、動画を振り返ることで仲間や教師に評価され、お客様アンケートでも評価され、自己の肯定的な理解につながった。

生徒Dの場合 振り返りツールで課題解決的な学びの連鎖で一転機

高等部1年生のDは、「人と話すことが好きなんです」と、喫茶サービスを当初から希望していた。キャリア発達段階表によると、「コミュニケーション力」「社会性」で高い値を示していた。その意欲や基礎的能力を、強みとして発揮できるよう考え、役割をホールでの接客に固定した。実際に、その強みは接客回数映戻れ、他の生徒は一度の営業で5回程度の接客回数だが、Dは11回接客していた。自分の役割を理解し、周囲の状況を把握し、客が来店すると、すぐに接客することができた。



事後学習では、ツールとしてお客様アンケートや接客営業中の録画映像を活用し、振り返りを行った。Dの反省では「途中から笑顔になれなかったかも」と語っていたが、接客の様子の動画を視聴すると、終始笑顔で接客できていたことが確認できた。お客様アンケートからは「初々しくそして礼儀正しく一生懸命さが伝わって良かったです」とコメントがあり、アンケートの「気持ちの良いあいさつ」「おもてなしのよさ」の項目ですべての客から最高値「5」の評価を受けていた。その内容を伝えると、照れながらも歓心していた。動画やアンケートから客観的に自分の良さを自覚し、達成感を得ることができた。「笑顔で接客したい」と次の目標を語った姿から、芽生えた自覚や自信が、自分の良さをより発揮したいという気持ちにつながると考察できた。

また、Webカメラを2台設置しフロアとパントリーの様子が分かることで、パントリーで数名の生徒が固まって、客が来店したにもかかわらずフロアに生徒が一人もいない状況が確認できた。その様子をDは、事後学習で気付き、協力して作業するという認識を新たに理解し、次の目標に加えて設定していた。翌月の実際の喫茶場面で、パントリーで同じような状況になった時、「固まるなよ、フロアに行かない」とDが仲間呼び掛けている姿があった。段階表による「仲間と協力・共同してチームの一員として役割遂行できる」力が育った瞬間だった。

『キャリア発達評価表』によるアセスメントと評価

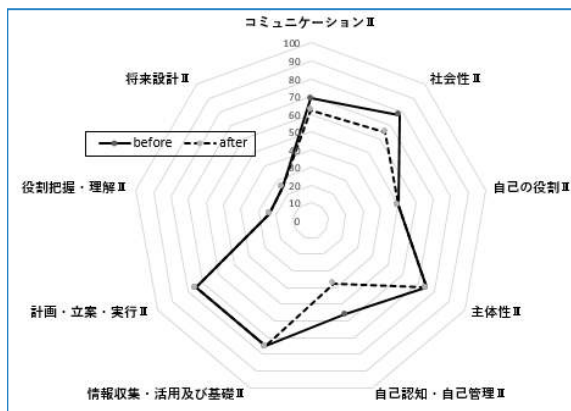
キャリア発達を促す「キャリア発達評価表」活用事例

生徒Eの場合 自己を振り返り、変えていく可能性

高等部2年生のEは、聞くよりも見て考えることが得意なため、振り返りの動画活用によって、認知処理をスムーズにすることで、TPOに応じた接客をすることができるようになった。

最初は、客が大勢来店すると、周囲をキョロキョロして何もできなかったり、後から来た客のオーダーを先に聞いてしまったりと、混乱する様子があった。事後学習で、その姿を動画で確認すると、「この時、焦って、何をしていたのかわからなかった」と、蘇ってきたその時の気持ちを説明していた。次の喫茶サービスでは、教師や仲間のアドバイスを受け、自分から仲間に声を掛けて役割分担を指示して接客に向かう姿があった。事後学習で、動画から生徒同士分担している様子を確認し、自己の変化を知ったことで、その後は、教師のアドバイスがなくても、主体的に役割分担し接客できるようになった。自分の行動を言語化し、生徒同士や教師と対話することを繰り返すことで、振り返った後、「あー頭を使った。こうすればよかった。」などと言う姿がよく見られるようになった。自らを振り返り変えていく思考を繰り返すことで、自然にメタ認知が少しずつ育むことが可能に

なったと考えられる。また、郡上大和総合開発株式会社（喫茶サービスの場所を提供してもらっている会社）から外部講師を招き、接客のプロから接客マナーを学習したことで、接客の一つ一つの所作が格段と上がったり、お客様アンケートで、紙面いっぱいにお客様から好コメントをもらい意欲が向上したり、ICTだけではない様々なことが作用し、「社会性」「コミュニケーション」「主体性」が総合的に向上している。接客支援アプリを「エキスパー



トモード」に自ら変更したことにも表れている。オーダーをとる以外の手順は、タブレットPCを使わず、よりお客様目線に立ち「やすらげるおちつける接客」に焦点をおいた接客に変わりつつある。

巻末資料 1～8

- 1 事前学習 学習支援案（略案）
- 2 事前学習 学習プリント
- 3 喫茶営業 学習支援案（略案）
- 4 作業日誌
- 5 事後学習 学習支援案（略案）
- 6 事後学習 学習プリント
- 7 「キャリア発達段階表」
- 8 「キャリア発達評価表」
- 9 お客様アンケート



巻末資料 1 【事前学習】

資料1

作業学習学習支援案

1 単元名 「 いつでもやすらげるおちつける喫茶をめざして Goodjob喫茶 」

2 本時の目標

- (1) Goodjob喫茶のイメージをもち、色々な役割を体験する。
- (2) 仲間と協力して営業を行うことを考えたり感じたりすることができる。

3 授業の展開	学習の流れ	学習内容と予想される姿（・） 及び具体的な支援（※）	具体的評価基準
導入 20分	○喫茶のイメージを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶営業に参加する日を知る。 ※喫茶のコンセプトについて教員が伝える。 ・客をもてなすことを大切に喫茶を行うことを知る。 ・Webカメラの画像、接客マニュアルの画像を見る ※教師も生徒のグループに入り、必要な支援を行いながら、つぶやきを拾い上げ、価値付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトの意味について、理解できたか。
展開 60分	○接客の体験をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの使用方法についての説明を聞く。（接客） ※タブレットPCを手に持ち、画面の切り替えをディスプレイ上のどの部分で切り替えができるのか確認する。 ※接客支援アプリの説明では、接客で伝える言葉は、アプリの吹き出しの言葉を、読み上げるよう伝える。接客の動作は、吹き出しがないことを伝える。 ・2つのグループに別れ、店員と客の役を交代しながら一通りの接客を体験する。 ※接客している様子をタブレットPCで撮影し、その動画で、良いところや改善する事などに気付くことができるようにする。 ・タブレットの使用方法についての説明を聞く。（レジ） ※レジアプリの説明では、レジで使用する言葉は、吹き出しの言葉を、読み上げるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の姿をICT機器を使って客観的に振り返り、自己の成長点や改善点に気付けたか。 ・喫茶の所作を体験できたか。
まとめ 20分	<ul style="list-style-type: none"> ○次回の練習について伝える。 ○片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日行った自分の役割や反省をプリントに記入する。教師に提出する。 ※教師が良かった姿を口頭で伝えると共に、価値付けを行う。 ・次回は模擬喫茶を行い、目標を持って喫茶に参加することを覚える。 ※役割を伝え、見通しがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返り、がんばったことやできたことに気付けたか。

巻末資料 1 【事前学習】

資料1

作業学習学習支援案

1 単元名 「いつでもやすらげるおちつける喫茶をめざして Goodjob喫茶」

2 本時の目標

- (1) Goodjob喫茶のイメージをもち自分の役割を理解する。
- (2) 仲間と協力して営業を行うことを考えたり感じたりすることができる。
- (3) 模擬喫茶での体験から、喫茶営業に向けての目標を持つことができる。

3 授業の展開

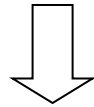
	学習の流れ	学習内容と予想される姿（・）及び具体的な支援（※）	具体的評価基準
導入 10分	○準備 ○喫茶営業の日程、役割を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して喫茶の準備を行う。 ・喫茶のコンセプトについて作業長が発表する。 ・日程を聞き、自分の役割をプリントに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を理解できたか。
展開 60分	○模擬喫茶を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割に従って、各自の作業を行う。 <p>※教師が客役を行い、右→の困難状況を作る。 ・「想定される困難状況」で接客を行う。 ※生徒が立ち尽くしたり、言葉が言えなかったときに伝える言葉や対応を伝える。 ※必要に応じてICTを活用し、即時評価やその場で振り返りを行う。 ※担当教師が見守り、仲間通しでアドバイスし合える環境を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力・協働して喫茶サービスができたか。 ・ICT機器を使って客観的に振り返り、自己の成長点に気付けたか。
	○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・Webカメラで模擬喫茶時の動画を見て、協働して行っていたか、仲間と評価しあう。 ※生徒が自ら気付いたり判断したりして活動している場面が確認できるような場面を前もって確認しておく。 	
まとめ 10分	○目標を発表する。 ○片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶の目標を仲間に発表する。 ※なぜその目標なのか、根拠を伝えることができる生徒については、尋ねる。 ※振り返りや喫茶営業日に活用できるよう、一人一人目標を宣言する動画を撮影する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の経験から目標を考え、発表できたか。

巻末資料 2 【事前学習プリント】

GoodJob喫茶 事前学習プリント
年 月 日 名前 ()

資料2

Goodjob喫茶コンセプトを書こう！
いつでもやすらげるおちつける喫茶をめざして



GoodJob喫茶での役割は何ですか？

(前回の反省を見て) この喫茶で学びたいことやがんばりたいことは何ですか？

あなたの目標は？1つ決めよう！！



巻末資料 3 【喫茶営業】導入

資料 3

作業学習学習支援案

- 1 単元名 「 お客様にとっての やすらげる おちつける Good Job喫茶をめざして 」
- 2 本時の目標
 - ①客の状況や気持ちを考えた対応や発言、質問ができる。（人間関係形成・社会形成能力）
 - ②自分から進んで、接客したり、準備や片付をしたりできる。（自己理解・自己管理能力）
 - ③客と関わったり働いたりする喜びを感じ、よりよい接客になるよう、自分の接客を改善しようとする事ができる。（課題対応能力）
 - ④周囲の状況に応じてやるべきことを考えながら行動できる。（キャリアプランニング能力）
- 3 授業の展開

	活 動	全体にかかわる活動における具体的な支援 (①教材教具、②教師の動き、③教師の言葉掛け)	評価規準
導入 80 分	<p>○客を迎える準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロア、バックヤード、床・窓の清掃 ・珈琲サーバーの準備とドリンクの準備 ・各テーブルセッティング ・フロア、バックヤードのコップの準備 ・エプロンを片づけ、キャップを被る <p>○ミーティングをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・目標確認 ・客への挨拶練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を珈琲サーバーに貼り、正確にドリンク準備ができるようにする。① ・テーブルセッティングは、手本とする写真を見たり、仲間に聞いたりするように促す。①②③ ・手順表を確認し、ミーティングを進行することで、スムーズに進行できるようにする。① ・目標確認の際、自身の目標を忘れてしまった場合、事前に撮った動画を見返すようにする。①②③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割に応じて、自分から動いて準備ができていたか。 ・目標の確認をすることができたか。 ・姿勢、声の大きさ、顔の表情に気を付けて、挨拶練習をすることができたか。



巻末資料 3 【喫茶営業】 展開から終末

資料3

<p>展開 240 分</p>	<p>○接客をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 客の誘導 客の来店に自分で気付き、すぐに客の方へ行き、人数を確認し席へ案内する。 気付いた生徒が、人数に合わせた水とおしぼりを用意し、提供する。 オーダー オーダー内容の伝達 オーダー票を取り、厨房やパリストにオーダー内容を正確に伝える。 デザートの提供・説明 客の人数に合わせてデザートを提供し、本日のデザートについて客に説明をする。 飲み物の提供 飲み物の準備ができたことを聞き、オーダー票と照らし合わせてチェックした上で、客に飲み物を提供し、オーダー票を置いてくる。 会計 テーブル片付け 見送り <p>○パントリー</p> <ul style="list-style-type: none"> デザートの準備 ホールの様子を確認し、客の来店と人数に合わせてデザートを用意する。 ドリンクの準備 客が注文した分をカップに注ぐ。 洗い物 	<ul style="list-style-type: none"> 客の来店に気付いていない場合は、教師が促す。② タブレットPCを使用することで、正確な手順で接客できるようにする。② 説明が覚えられない部分は、接客支援アプリに記載し、接客がスムーズに行えるようにする。①③ オーダー票を見ながら、会計をサポートするレジアプリを使って、会計する。① 客が会計へ向かうタイミングに合わせ、客が使った食器を片づけるように促す。③ 客が来店した際、客の人数に合わせて接客する生徒がすぐに提供できるように、Webカメラの動画や生徒が挨拶する声を聞くように促す。①②③ 洗い場に食器がある場合、食器を洗うように促す。③ Good Shotのアプリを使って、生徒のいい姿が「いいね」、他の生徒にも紹介したい姿「注目」、改善する姿「チェック」をタップすることで、即時評価や事後学習に活用する。①② 見本を用意することで、正確な量でドリンクを淹れることができるようにする。①③ 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのよい挨拶ができていたか。 接客はスムーズだったか。 礼儀正しく接客することができていたか。 常に笑顔で接客することができていたか。 客の動きや会話に合わせて接客をすることができたか。 客が帰る時に、自分で気付きテーブルを片づけることができたか。 客が帰る時は、敬礼とともに「ありがとうございました」とはっきりとした挨拶をみんなですることができたか。 正確な量でドリンクを注ぐことができたか。
<p>終末 15 分</p>	<p>○後片付けをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 食器等の道具の片付けや清掃等を行う。 <p>○ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 一日の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> フロアの客の状態に合わせ、コップや皿を片づけるように促す。③ Webカメラで録画していた映像の中から、本時の目標の振り返りに適切な接客場面をピックアップし、全員で見ることができるようプロジェクトで提示する。①②③ 	<ul style="list-style-type: none"> Webカメラで録画した映像を見て、目標の達成についてや今後の課題について話すことができたか。

巻末資料 4 【作業日誌】

喫茶サービス 作業日誌 年 組 名前 ()

資料4

日にち (曜日)	月	日	曜日
いつでも『やすらげる おちつける 喫茶』を			

今日の目標			
1日 を 振 り 返 っ て チ ェ ッ ク し て く だ さ い	<input type="checkbox"/>	テキパキと行動できた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ
	<input type="checkbox"/>	礼儀正しく接客ができた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ
	<input type="checkbox"/>	正しい手順でお客様を迎えることができた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ
	<input type="checkbox"/>	気づいて行動することができた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ
	<input type="checkbox"/>	お客様をもてなす工夫ができた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ
	<input type="checkbox"/>	常に笑顔でお客様と接することができた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ
	<input type="checkbox"/>	「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」 「かしこまりました」「もうしわけありません」 「おそれいます」「しょうしょうおまちください」 「おまたせいたしました」を必要なときに言うことができた	3.できた 2.もう一歩 1.まだまだ

今日の喫茶を営業してみたの あなた の満足度は、 100点満点中何点ですか？	満足点数	点
今日の喫茶を営業してみたの お客様 の満足度は、 100点満点中何点だとおもいますか？	満足点数	点
良かった姿 改善したい姿		
担当者より		



巻末資料 5 【事後学習】

資料5

作業学習学習支援案

- 1 単元名 「 やすらげるおちつける喫茶をめざして Goodjob喫茶(事後学習) 」
- 2 単元の目標
 - (1) Good Job喫茶のコンセプトである「やすらげる おちつける 喫茶」を意識し、自分の目標や役割を決め、遂行することができる。
 - (2) 学校祭の役割を理解し仲間や教師と協力しながら、一人一人の決められた分担作業に取り組むことができる。
- 3 本時の目標
 - (1) 喫茶での自分の行動や取組について、客観的に振り返り、今後の目標に取り組む自分の姿をイメージすることができる。
 - (2) 仲間と協力して営業を行っていることを考えたり、感じたりすることができる。
- 4 授業の展開

	活動	活動における具体的な支援 (①教材教具、②教師の動き、③教師の言葉掛け)	評価規準
導入 5分	○喫茶の売り上げを確認する。	①②③喫茶の売り上げ金額を発表した後、お客様アンケートから生徒のモチベーションアップにつながる内容を読み上げ、主体的に自分の姿を振り返るように促す。	お客様アンケート内容を聞くことができていたか。
展開 30分	○喫茶営業での振り返り ○自分の目標について、意気込みを伝えている動画を見る。 ○Webカメラの営業時の動画を見る。 ○喫茶に参加してどんなことを学んだのか、参加する前とした後と何か違いはあるか、気付いたことは何か等を考える。	①PC、タブレット、スマートフォン、超短焦点プロジェクタ ③生徒の意見を拾い上げ、価値付けをする。仲間の目標も一緒に確認するよう言葉掛けを行う。 ①②③喫茶営業している360度の映像を平面で視聴することで、周囲の状況を発見し、言葉で伝えるように促す。 ①②生徒が自ら気付いたり判断したりして活動している場面を確認できるよう前もってキャプチャを確認する。 ②③教師が気付きや考えを促すような言葉掛けを丁寧に行う。 ③生徒が考えた内容を発表するように促す。	ICTの利活用で、自分の姿を客観的に振り返り、自己の成長点に気付けたか。
まとめ 10分	○今後の目標を発表する。 ○喫茶の学習の学びを生かし、次回の喫茶営業または、学校祭での目標を発表する。	①②③今後の目標に対しての再認識を促すため、再度、お客様アンケートを読み上げる。 ③できなかったことを目標にするのではなく、できたことを次の活動に生かしていくよう、言葉掛けを行う。	今後の学習で、喫茶での経験を生かしていこうとする気持ちを発表できたか。

巻末資料 6 【事後学習プリント】

資料6

Good Job 喫茶 事後学習プリント

月 日 名前 ()

喫茶の売り上げは???

円

※Goodjob喫茶を振り返ろう

あなたの目標は何でしたか？

あなたの目標と役割を照らし合わせながら喫茶を振り返ろう

- この喫茶で学んだことは何ですか？
- 仲間とどんな場面で協力できていましたか？
- 参加前と後での違いは？（気持ち、やる気、これからがんばりたいこと、できたことなど）

今後の目標

担当の先生より



巻末資料 7 【キャリア発達段階表】 人間関係形成・社会形成能力

キャリア教育の発達段階表

段階：知的障害のある児童生徒の実態が多様であるため、発達段階に応じて内容が選択できるように例示されています。基礎・応用・実践とも、発達の段階に合わせ2段階（Ⅰ・Ⅱ）で分けられています。

資料7

Ⅰ	主として障害の程度が比較的重い。意思疎通・日常生活に常時～頻繁に支援が必要
Ⅱ	障害の程度が比較的軽い。意思疎通・日常生活に一部支援が必要

キャリア教育による役割			基礎		応用	実践	
基礎的・汎用的能力	要素	段階	知識・技能Ⅰ	知識・技能Ⅱ	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることも、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	コミュニケーション	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 自分のしたいことを直接的な方法や発声で伝える。	<input type="checkbox"/> 自分の要求を言葉やカード、動作等で伝える。	<input type="checkbox"/> 自分の気持ちや意思、意見や要望などを相手に感情や状態、動作などを表す言葉を使い、順序立てて伝える。	<input type="checkbox"/> 相手に応じて適切な方法で自分の意見や気持ちを伝えたり、筋道を立てて正確に話の内容を伝えたりする。
				<input type="checkbox"/> 困ったときに、教師に聞かれて伝える。	<input type="checkbox"/> 困ったときに、教師に伝える。	<input type="checkbox"/> 自分なりの方法で活動の許可を求めたり、報告・連絡をしたりする。	
				<input type="checkbox"/> 嫌なときに、拒否の気持ちを直接的な方法や発声で伝える	<input type="checkbox"/> 嫌なときに、教師に言葉やカード、動作等で拒否の気持ちを伝える。	<input type="checkbox"/> 指示や説明を聞き取って行動したり、教師の支援を受けながら、相手の気持ちを受け止めたりする。	
				<input type="checkbox"/> 行きたい場所やしたいことがあるとき、絵カードや補助具を用いて許可を伝える。	<input type="checkbox"/> 行きたい場所やしたいことがあるとき、絵カードや補助具を用いて許可を求める。	<input type="checkbox"/> 相手の話す内容を適切に理解し、気持ちや意見を受け入れる。	
				<input type="checkbox"/> 「こっちにおいて」など簡単な指示を受け入れる。	<input type="checkbox"/> 簡単な指示や説明を聞き、行動をする。		
	Ⅱ	<input type="checkbox"/> 音声言語やカード、身振りなどを用いて適切に自分の要求を伝える。	<input type="checkbox"/> (3語文程度)適切な方法や言葉で自分の要求を伝える。	<input type="checkbox"/> 相手に、根拠や5W1H、敬語等を使った適切な方法で気持ちや要件を伝える。	<input type="checkbox"/> 具体的な形でコミュニケーションスキルの基礎・基本を身に付け、状況や場に応じた適切な方法で、自分の意見や気持ちを伝える。		
		<input type="checkbox"/> 困ったときや嫌なときに、教師に適切な方法で気持ちを伝える。	<input type="checkbox"/> 嫌なときに、教師や友達に適切な方法で拒否の気持ちを伝える。	<input type="checkbox"/> 適切な表現で質問したり、援助を求めたりする。			
		<input type="checkbox"/> 場を離れるときは行き先を伝える	<input type="checkbox"/> 場を離れるときは、許可を求める	<input type="checkbox"/> 活動の許可を求めたり、報告・連絡をしたりする。	<input type="checkbox"/> 相手の気持ちや意見を受け入れる。		
		<input type="checkbox"/> したいことがすぐにできなくても、手掛かりを確認するなど気持ちを調整し、指示を受け入れる。	<input type="checkbox"/> 聞いけられたときに、見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ち等を簡単な言葉で応じる。	<input type="checkbox"/> 相手の気持ちや意見を聞く。			
Ⅰ	社会性	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 教師の支援を受けながら、身近な人からの「おはよう」「さようなら」の挨拶に、動作や発声等で応える。	<input type="checkbox"/> 身近な人からの挨拶に、自分から言葉や動作で挨拶を返す	<input type="checkbox"/> 出会った人に、自分から言葉や動作で挨拶をする。 <input type="checkbox"/> 「ありがとう」「ごめんなさい」等を動作や言葉で伝える。	<input type="checkbox"/> 場や状況に応じて、感謝やいたわり、反省などの自分の気持ちを率直に伝える。	
			<input type="checkbox"/> 友達に関心をもち、特定な友達と関わることができる。	<input type="checkbox"/> 教師の支援を受けながら、「ありがとう」「ごめんなさい」を動作や言葉で伝える。	<input type="checkbox"/> 友達と一緒に活動することで友達の良さに気付く。		
			<input type="checkbox"/> 簡単な約束を意識できる。	<input type="checkbox"/> 同性、異性にかかわらず、友達となかよくする。	<input type="checkbox"/> 友達等、人と交わした約束を守る。	<input type="checkbox"/> 友達の良さに気付く、相手を認める。	
			<input type="checkbox"/> 身近な生活の中にある決まりを意識する。	<input type="checkbox"/> 順番等の簡単な約束を守る。	<input type="checkbox"/> 生活の中で決められている決まりを守る。		
			<input type="checkbox"/> 教師の働き掛けを受け入れて一緒に遊ぶ。	<input type="checkbox"/> 身近な生活の中にある簡単な決まりを守る。	<input type="checkbox"/> 友達と一緒に試行錯誤したり、工夫したりしながら遊ぶ。	<input type="checkbox"/> 集団や社会でのルールを守り、役割を意識して協力しながら活動に取り組む。	
			<input type="checkbox"/> 教師と一緒に物を運ぶなど簡単な共同した活動をする。	<input type="checkbox"/> 友達に誘われて一緒に遊ぶ。	<input type="checkbox"/> 作業分担や役割が分かり、自ら進んで活動に取り組む。		
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に集団の中で活動することに慣れる。	<input type="checkbox"/> 教師の援助を受けて友達と一緒に活動に取り組む。 <input type="checkbox"/> 人数や年齢層が異なる集団に参加する。	<input type="checkbox"/> 集団に進んで参加し、集団内で教師や友達の行動を自分のモデルにしたり、集団に合わせて行動したりする。	
				<input type="checkbox"/> 挨拶や「ありがとう」「ごめんなさい」等の言葉を、適切な場面で言う経験をする。	<input type="checkbox"/> 「ありがとう」「ごめんなさい」等の言葉を、相手に理解してもらえるように適切に言う。	<input type="checkbox"/> 状況に見合った適切な方法で、相手に感謝や謝罪、思いやりなどの気持ちを伝える。	<input type="checkbox"/> TPO(とき・場所・場合)に応じた言動をする。
				<input type="checkbox"/> 特定の友達や教師の顔や名前が分かる。	<input type="checkbox"/> 身近な人の顔や名前が分かる。	<input type="checkbox"/> 友達の良さを知り、関わり合う。	
				<input type="checkbox"/> 男女の性別があることに気付く、自分が男か女かが分かる	<input type="checkbox"/> 男女の性別があることを理解し、友達や教師の性別が分かる	<input type="checkbox"/> 相手の立場を考えて、話したり行動したりする。	<input type="checkbox"/> 他者の感情や長所を理解し、適切な対応がとれる。
				<input type="checkbox"/> 簡単な約束を守る。	<input type="checkbox"/> 友達との約束を守る。	<input type="checkbox"/> 集団内の約束を守って、集合や整列など集団行動を身に付ける	
				<input type="checkbox"/> 友達と一緒に協力して作業に取り組む。	<input type="checkbox"/> 友達と一緒に簡単なごっこ遊びやルールのある遊びをする。	<input type="checkbox"/> 集団の中で生活の流れに乗り、一緒に活動する。	
Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	<input type="checkbox"/> 同性、異性にかかわらず同年代の友達と仲良くする。	<input type="checkbox"/> 困っている友達の手助けをしながらか活動に取り組む。 <input type="checkbox"/> 積極的に様々な集団活動に参加する。	<input type="checkbox"/> グループ内での自分の役割等を理解し、友達と協力して共同で作業する。 <input type="checkbox"/> 集団活動に進んで参加し、教師や友達との良い関係を築きながら活動をする。 <input type="checkbox"/> 異年齢集団の中で、いろいろな友達と活動する。	<input type="checkbox"/> 他者の考えや個性を尊重する。 <input type="checkbox"/> 協力・共同して、集団(チーム)の一員として役割を遂行する。	

巻末資料 7 【キャリア発達段階表】 自己理解・自己管理能力

キャリア教育の発達段階表

段階：知的障害のある児童生徒の実態が多様であるため、発達段階に応じて内容が選択できるように例示されています。基礎・応用・実践とも、発達の段階に合わせ2段階（Ⅰ・Ⅱ）で分けられています。

Ⅰ	主として障害の程度が比較的重い。意思疎通・日常生活に常時～頻繁に支援が必要
Ⅱ	障害の程度が比較軽い。意思疎通・日常生活に一部支援が必要

資料7

キャリア教育による役割			基礎		応用	実践	
基礎的・汎用的能力	要素	段階	知識・技能Ⅰ	知識・技能Ⅱ	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	自己の役割	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 信頼関係に基づいた支援を受けながら、遊びや学習の役割の一部を楽しんで担う。	<input type="checkbox"/> 学習や生活の中で、繰り返して行ってきた活動について、自他の役割を意識し、自分の役割をきちんと果たすことができる。	<input type="checkbox"/> 支援を受けながら、自他の役割を理解し、協働・協調して身近な生活上の課題を具体的な活動を通して解決する。	<input type="checkbox"/> 学習や作業、生活上の任せられた役割を、責任を持って果たそうとし、必要であれば、簡単なリーダーシップがとれる。
				<input type="checkbox"/> 褒められることで、頑張っている自分に気付く。	<input type="checkbox"/> 自分が共感され、受け入れられる経験を積むことで、頑張ろうという気持ちを持ち、他者との信頼関係を築く。	<input type="checkbox"/> 家庭生活や学校生活の中で、与えられた役割を果たすことに意義を感じ、やりがいをもつ。	<input type="checkbox"/> 現在、及び卒業後の家庭、職場等における自分の果たす役割を具体的な活動や体験を通して理解し、果たしつつ、身に付けていこうとする。
				<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、簡単な手伝いをする。		<input type="checkbox"/> 支援者と課題に取り組む中で、得意不得意に気付き、繰り返し取り組むことで、苦手なことを少しずつ得意に変える。	<input type="checkbox"/> 自己の得意不得意が分かり、励ましや支援を受けたとき、それを信頼し試みる価値があることが分かる。
		Ⅱ	<input type="checkbox"/> 身近な人との信頼関係を基盤として、学校生活や家庭生活中で当番や分担に取り組み、着実に果たすことで、基本的な役割やその意義を感じる。	<input type="checkbox"/> 学校生活等の様々な係りや分担の意義が分かり、責任を持って役割を果たすことで、身近な人との信頼関係が広がる。	<input type="checkbox"/> 学んできた知識や技能が、家庭や地域の様々な職業や役割と結び付き、自分との関係が分かる。また、学級活動等で培ってきた基本的な集団活動が友達との間で遂行できる。	<input type="checkbox"/> 自立を自らの価値とし、卒業後の職業生活や家庭生活に果たす役割を現実的な課題として意識する。また、現在の学習と結び付けて理解し、積極的に身に付けていこうとする。	
			<input type="checkbox"/> 手伝いを行い、役に立っていることに気付く。	<input type="checkbox"/> 係活動や当番活動などの役割を果たし、役に立つ喜びを感じる。	<input type="checkbox"/> 自らの役割を果たすことで、周りの人の役に立っていることを実感する。	<input type="checkbox"/> 働くことの意義が分かり、自分の役割を果たす。	
						<input type="checkbox"/> 適切な援助の中で見出した課題について、肯定的に自己の能力と関係付けて理解し、解決に向けて積極的に取り組む。	
	主体性	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、基本的な生活習慣を形成する。	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、食事・睡眠・排泄など基本的な生活習慣を身に付ける。	<input type="checkbox"/> 補助具を用いたり、必要に応じて援助を受けながら、身辺処理を自分で行う。（自分のことは自分でしようとする。）	<input type="checkbox"/> 金銭や安全、健康などの管理を含む、社会生活に必要な基本的な知識・技能について実践し、具体的に理解し、シンプルに身に付けていこうとする。	
			<input type="checkbox"/> 教師とやりとりすることを楽しみに、自分から関わる。	<input type="checkbox"/> 自分の好きなことやしたいことを選ぶ。	<input type="checkbox"/> 自分で活動を選ぶ。	<input type="checkbox"/> 具体的に見聞きし学んできた職業生活、家庭生活等について将来の希望を持ち、より良く過ごせるように現在の学習に積極的に取り組もうとする。	
		Ⅱ	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣を身に付け、これを基盤として生活上、学習上の課題に積極的に取り組んでいこうとする。	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣の確立の意義や必要性が分かり、生活上、学習上の課題に向心を持って取り組もうとする。	<input type="checkbox"/> 地域の生活と日々の学習を結び付けることができ、学ぶことの意義を感じ、学習の目標をもって主体的に取り組もうとする。	<input type="checkbox"/> 働くことの意義が分かり、将来の独立した生活を目指して、より実践的、専門的な知識技能を身に付けることによって自分を高めていこうとする。	
			<input type="checkbox"/> 好きな遊びや活動を思い切り楽しむことで、自分らしさを発揮のびと活動する。	<input type="checkbox"/> 知的好奇心を持っていろいろなものに自ら関わることで、興味・関心を広げ、いろいろな活動にチャレンジし、思う存分活動する。	<input type="checkbox"/> 自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択しようとする。	<input type="checkbox"/> 自己の特性について肯定的に捉え、努力することの大切さが分かり、必要ときには、適切な支援を求めるなど、適切な判断力を養いつつ、課題に取り組んでいこうとする。	
自己認知・自己の障害受容・自己管理	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、学校生活の決まりを守る。	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、学校生活の様々な決まりを知り、守る。	<input type="checkbox"/> 基本的なルールや規範が分かり自らを律することができる。	<input type="checkbox"/> 社会生活に必要な基本的な決まりや制度、規範が分かり、守ることができる。さらに、支援を受けたり、体験を通したりすることによって活用できる。		
		<input type="checkbox"/> 不快な場所を自分から避ける。	<input type="checkbox"/> 落ち着くことのできる場所や活動を絵カードなどで伝える。	<input type="checkbox"/> 不安になったとき、解消する方法を教師と一緒に見付ける。	<input type="checkbox"/> 一人で（または支援を受けて）クールダウンをする。		
		<input type="checkbox"/> 遊びの中で、自分の好きなもの、好きなことを見付ける。	<input type="checkbox"/> 遊びの中で、自分の好きなもの、好きなことを増やす。	<input type="checkbox"/> 活動をする中で、達成できたことを喜び、得意なことに気付く。	<input type="checkbox"/> 身体面の能力も含めて特徴的な自身の長所、短所に気付き意識して伸長・改善を図ることができる。		
	Ⅱ	<input type="checkbox"/> 身近な道具や機器類、おもちゃなどを学習や生活の中で、支援を受けながら目的に沿って利用することができる。	<input type="checkbox"/> 学習や生活の中で、扱いの簡単な道具や機器類、おもちゃなどを使うことによって、活動が方向付けられ、自身の能力を有効に発揮することができる。	<input type="checkbox"/> 仕事や学習上の課題解決に必要な道具や機器類を有効に活用する経験を支援を受けながら積み、いつかは自分で利用することができる。	<input type="checkbox"/> 基本的な生活上、職業上の課題を解決し、職業生活等の質を向上させるために、必要な道具や機器類を具体的にかつ有効に使うことができる。		
		<input type="checkbox"/> 教師と一緒に日常生活の決まりを守る。	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に日常生活の様々な決まりやマナーを知り、守る。	<input type="checkbox"/> ルールや規範が内面化し、自ら守り実行しようとする。	<input type="checkbox"/> 社会生活に必要な決まりや制度が分かり、守り、活用する。		
		<input type="checkbox"/> イライラしたときには、教師に伝える。	<input type="checkbox"/> イライラしたときに、自ら落ち着くための方法を複数知っている。	<input type="checkbox"/> 戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中から、よりよい選択をする。	<input type="checkbox"/> ストレスの解消方法が分かり、実行する。		
	<input type="checkbox"/> 褒められることで自分のよさに気付く。	<input type="checkbox"/> 様々な活動を通して、具体的なフィードバックをもらうことにより、自分の特性に気付くとともに、長所を伸ばし、短所を少しずつ改善する。	<input type="checkbox"/> 自分の行動を反省的にみることによって、自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。	<input type="checkbox"/> 自分の性格や特性に適切に折り合いをつけ、穏やかに物事に対処する。			
<input type="checkbox"/> 教師の見守りのもとで、学習や生活の中で日常的に使われている道具の使う目的が分かり、使おうとする。	<input type="checkbox"/> 目的に応じて、身近な道具を適切に使おうとともに、情報機器（AAC等含む）等を教師や大人の支援を受け活用しようとする。	<input type="checkbox"/> 道具や機械、情報機器、材料の扱いが分かり、安全や衛生に気を付けながら、作業や実習などの学習や生活に生かす。	<input type="checkbox"/> 自己の能力を伸張、支援してくれる道具や機械、情報機器類、材料の扱い方やリスクが分かり、安全や衛生に気を付けながら、学習や生活に生かす。				

巻末資料 7 【キャリア発達段階表】課題対応能力

キャリア教育の発達段階表

段階：知的障害のある児童生徒の実態が多様であるため、発達段階に応じて内容が選択できるように例示されています。基礎・応用・実践とも、発達の段階に合わせて2段階（Ⅰ・Ⅱ）で分けられています。

資料7

Ⅰ	主として障害の程度が比較的重い。意思疎通・日常生活に常時～頻繁に支援が必要
Ⅱ	障害の程度が比較的軽い。意思疎通・日常生活に一部支援が必要

キャリア教育による役割			基礎		応用	実践	
基礎的・汎用的能力	要素	段階	知識・技能Ⅰ	知識・技能Ⅱ	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
課題対応能力	・ 活用情報及び基礎	Ⅰ	<input type="checkbox"/> たくさんのおもちゃや本の中から好きなものを取り出す。	<input type="checkbox"/> 色、形、数などに注目して、提示されたものを集めたり、分けたりする。	<input type="checkbox"/> 支援を受けながら、具体的な学習や課題解決の経験（情報機器の利用も含む）を通して、生活上必要な知識を得る。	<input type="checkbox"/> 生活に必要な情報を得る体験を通して、自分に合った内容や情報取得の方法を理解し、利用できる。	
			<input type="checkbox"/> 楽しみを意識して、活動に取り組む。	<input type="checkbox"/> 楽しみを期待して、教師と苦しい活動に取り組む。			
			<input type="checkbox"/> 2つの選択肢から選ぶことができる。	<input type="checkbox"/> 楽しみを期待して、教師と苦しい活動に取り組む。			
			<input type="checkbox"/> 教師と一緒に準備や片付けを行う。	<input type="checkbox"/> 3つ以上の選択肢の中から選ぶことができる。			
		Ⅱ	<input type="checkbox"/> 教師の声掛けを受けて、必要なものを準備したり、所定のところに戻したりする。	<input type="checkbox"/> 活動や作業に必要なものをカード等で確認をして自分で準備したり、使い終わったものを所定の位置に戻したりする。	<input type="checkbox"/> 活動や作業に必要なものを自分で判断して準備したり、使い終わったものを所定の位置に戻したりする。		
			<input type="checkbox"/> 身近に目にするマークや標識に気付く。	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、様々な情報をテレビやビデオ、本、図鑑等で見る。		<input type="checkbox"/> 自分達の現在、将来の生活について必要な個人的情報と社会一般に対する広範な情報（新聞、テレビ、ラジオ、雑誌等）を、適切に収集し役立てる経験を積み、生活に生かせる。	
			<input type="checkbox"/> 複数の活動の中で、教師の提案を受けて、何を頑張るかを選ぶ。	<input type="checkbox"/> しなければならない活動で、教師と一緒に目標を立てる。			
			<input type="checkbox"/> 一週間の大きな予定を知り、見通しをもつ。	<input type="checkbox"/> 一週間の大きな予定を理解し、予定に沿って生活する。			
	<input type="checkbox"/> ノートに書き写すことができる。	<input type="checkbox"/> 必要な情報をノートに書くことができる。	<input type="checkbox"/> パソコンの基本的な操作が分かる。	<input type="checkbox"/> 日常の学習や生活に密着した情報処理ツール(手帳、メモ、インターネット、ワークシート等)が、実際の生活等で利用できる。			
	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	計画・立案・実行	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 教師と一緒に、簡単な課題に取り組む。	<input type="checkbox"/> 身体ガイドや指差しを受け入れて、課題に取り組む。	<input type="checkbox"/> 自分なりに試行錯誤しながら課題解決の方法を見付ける。	<input type="checkbox"/> 先を見通し、適切な課題解決の方法を自分で考え行動に移す。
				<input type="checkbox"/> 教師の支援を受けながら、頑張ることを（目標）を考えて活動に取り組み、活動の最後に頑張ったことが言える。	<input type="checkbox"/> 自分で頑張ることを（目標）を考え、活動の最後に活動を振り返り、頑張ったことが言える。	<input type="checkbox"/> 活動と対比をさせながら自分で生活上の目標を設定し、目標を意識しながら活動に取り組むとともに、目標に基づいた振り返りをする。	<input type="checkbox"/> 前回の反省や本時の活動に基づいて目標を設定し、目標を意識しながら活動に取り組むとともに、目標に基づいた振り返りをする。
				<input type="checkbox"/> 教師の支援を受けながらスケジュールを確かめ、生活する。	<input type="checkbox"/> 一日のスケジュールを自分で確認しながら活動する。	<input type="checkbox"/> 予定の変更等も柔軟に受け入れ一日のスケジュールに沿って活動する。	<input type="checkbox"/> 一日のスケジュールを自分で設定し、主体的に取り組む。
<input type="checkbox"/> 教師からの賞賛で、自分の頑張りに気付く。				<input type="checkbox"/> 遊びや学習の終了時に楽しかったことを振り返る。	<input type="checkbox"/> 活動後に自らの活動を振り返り、活動の中でうまくいったこと等を発表する。	<input type="checkbox"/> より客観的・肯定的に自己を評価する。	
Ⅱ		<input type="checkbox"/> 手順書や視覚的な手掛かりを活用し、できるだけ一人で課題に取り組む。	<input type="checkbox"/> 手順書や視覚的な手掛かりを活用し、一人で課題に取り組む。	<input type="checkbox"/> 自分の決めた目標に向けて、見通しをもって活動に取り組む。	<input type="checkbox"/> 学習の目標を設定し、目標を達成するため主体的に取り組む。		
		<input type="checkbox"/> 課題ができたら教師に報告する。	<input type="checkbox"/> 課題ができたら教師に報告したり、分からないことは教師に相談したりする。	<input type="checkbox"/> 時計やタイムタイマー等を活用し、開始時刻や終了時刻を意識しながら作業学習等に取り組む。	<input type="checkbox"/> 作業の開始、終了時刻を守り、活動の区切りごとに適切に報告をする。		
		<input type="checkbox"/> 授業の振り返りで自分のよかったところ、頑張ったところに気付く、次の活動に意欲をもつ。	<input type="checkbox"/> 活動後に「楽しかったこと」「頑張ったこと」「うまくできたこと」を振り返る。	<input type="checkbox"/> 作業学習や校内・現場実習を通して、客観的、肯定的に自己を評価する。	<input type="checkbox"/> より客観的・肯定的に自己を評価すると共に次の活動に生かす。		
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 活動後に自分の課題に気付く、よりよくしようとする。	<input type="checkbox"/> 活動場面で振り返りをもとに、次の活動に生かそうとする。			

巻末資料 7 【キャリア発達段階表】 キャリアプランニング能力

キャリア教育の発達段階表

段階：知的障害のある児童生徒の実態が多様であるため、発達段階に応じて内容が選択できるように例示されています。基礎・応用・実践とも、発達の段階に合わせて2段階（Ⅰ・Ⅱ）で分けられています。

Ⅰ	主として障害の程度が比較的重い。意思疎通・日常生活に常時～頻繁に支援が必要
Ⅱ	障害の程度が比較的に軽い。意思疎通・日常生活に一部支援が必要

資料7

キャリア教育による役割		基礎		応用		実践	
基礎的・汎用的能力	要素	段階	知識・技能Ⅰ	知識・技能Ⅱ	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
キャリアプランニング能力	役割把握・理解	Ⅰ	<input type="checkbox"/> 褒められることで、頑張っている自分に気付く。	<input type="checkbox"/> 褒められたり、支援を受けたりしながら持続して役割を果たすことで、頑張っている活動する。	<input type="checkbox"/> 係活動や当番活動、手伝いなど、学校や家庭で分担した役割を果たし、認められることで役に立つ喜びを感じる。	<input type="checkbox"/> 自分の役割が分かり、それを果たし、働く喜びが分かる。	
			<input type="checkbox"/> 家庭や学校で支援を受けながら役割を果たし、自分が果たさなければならない役割があることが分かる。	<input type="checkbox"/> ごっこ遊びや身近な人たちの様子を見て、働くことや役割を果たすことに憧れをもつ。	<input type="checkbox"/> 職場見学や現場体験を通して、様々な職業があることを知り、働くことに興味をもつ。	<input type="checkbox"/> 作業学習や現場実習、職場見学等の具体的な体験を通して働くことの意義や大変さを知り、具体的な課題をもって将来の進路を考える。	
			<input type="checkbox"/> 教師と一緒に買い物をする。	<input type="checkbox"/> 教師の援助を受けて、買い物をする。	<input type="checkbox"/> 校外学習等で、お金を大切に扱うこと（財布、お金を払う、おつりをしまう等）を体験する。	<input type="checkbox"/> お金の価値が分かり、買い物をする。	
			<input type="checkbox"/> 買い物には、お金が必要であることが分かる。	<input type="checkbox"/> 販売学習を通して、作業で作った製品が商品として販売される流れを体験する。	<input type="checkbox"/> 「労働力」を提供することで、「賃金」を得ることが分かる。	<input type="checkbox"/> 生活を支える具体的な活動として、お金の計画的な使い方やリスクを避ける方法を支援を受けながら知り、実行していく。	
		<input type="checkbox"/> 教師と一緒に学校付近の公園・広場や店を使ったり、電車やバスを利用したりする。	<input type="checkbox"/> 教師の援助を受けて、身近な公共施設や交通機関を利用する。	<input type="checkbox"/> 校内実習を通して、働くことが報酬につながることを体験す	<input type="checkbox"/> 公共施設や交通機関などを支援者と共に利用する経験を通して、生活に最低限必要な機関や施設、地域資源やサービスなどを一人で利用できる。		
		Ⅱ	<input type="checkbox"/> 手伝いをして、役に立っていることに気付く。	<input type="checkbox"/> 係活動や当番活動などの役割を果たし、役に立つ喜びを感じる。	<input type="checkbox"/> 自らの役割を果たすことで、周りの人の役に立っていることを実感する。	<input type="checkbox"/> 働くことの意義が分かり、自分の役割を果たす。	
			<input type="checkbox"/> 家族や親戚、近所の人の仕事に関心をもつ。	<input type="checkbox"/> 学習を通して様々な仕事や役割があることが分かり、地域の様子結び付けることができる。	<input type="checkbox"/> 基本的な社会の仕組みや制度（政治、経済等）、職業の種類（一次産業など）や内容等が知識として分かる。	<input type="checkbox"/> 職業生活や地域生活に必要な事柄の情報を収集し、活用する。	
			<input type="checkbox"/> お金を大切に扱い、一人で買い物をする。	<input type="checkbox"/> 手伝い等で金銭を得る経験を積み、お金が大切であることが分かる。	<input type="checkbox"/> 学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行する。	<input type="checkbox"/> 職業生活・地域生活において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。	
			<input type="checkbox"/> いろいろな店の種類や、商品の名前を言う。	<input type="checkbox"/> 地域の商品の生産に関わる工場や農家等に関心を持ち、近所の店や建物等を見て、その役割と特徴を知る。	<input type="checkbox"/> 生活するために必要なものを計画的に消費することや貯金などを通してお金の大切さや使い方の基本が分かる。	<input type="checkbox"/> 計画的な消費生活の必要性とリスクが分かり、カード等の形態に対応した金銭の管理をするとともに、必要なときは支援者に相談できる。	
			<input type="checkbox"/> 教師と一緒に公共施設や身近な交通機関をマナーを守って利用する。	<input type="checkbox"/> 身近な公共施設や交通機関の利用の仕方を知り、マナーを守って可能な限り自分で利用しようとする。	<input type="checkbox"/> 労働と報酬の関係が分かる。	<input type="checkbox"/> 労働や報酬、自己の能力等の関係が分かる。	
					<input type="checkbox"/> 学校や町、公共施設等で目にする表示、標識や案内板、看板やポスター、広告などの意味が分かる。	<input type="checkbox"/> 自立した生活を送るためには、移動手段の獲得と役割を果たすための機関や制度等を含む社会資源の活用が必要であることが分かり、使えるようになる。	
					<input type="checkbox"/> 日常生活に関係の深い公共の施設や公共物、交通機関の利用が自分の生活に必要なことが分かり、アクシデントに対応できるレベルで適切に利用できる。		
Ⅰ	<input type="checkbox"/> 家庭や学校で支援を受けて役割を果たすことで、自分が果たさなければならない役割があることに気づき、分かる。	<input type="checkbox"/> 模範的な活動や地域の身近な人たちの様子を見ることを通して、働くことや役割を果たすことに対する関心を持ち、漠然とした憧れをもつ。	<input type="checkbox"/> 職場見学や職場体験、あるいは本物に近い体験を通して、身近な人たちの役割に気付く、様々な職業や役割があることを知り、働くこと、役割を果たすことに興味をもつ。	<input type="checkbox"/> 作業学習や現場実習、職場見学等の具体的な体験を通して働くことの意義や大変さを知り、具体的な課題をもって将来の進路を考え、日々の学習や生活に取り組む。			
	<input type="checkbox"/> 自分の必要に根ざした店や公共施設、交通機関の利用を通して、その役割に気付くと同時に、身近な地域で働く人に関心をもつ。	<input type="checkbox"/> 家族が役割をもっていることに気付く、いろいろな店に関心をもつ。	<input type="checkbox"/> 作業や現実度の高い活動を通して、生活するときに必要な態度や価値に気付く、今後の学習において高めていこうとする。	<input type="checkbox"/> 生活上の課題に気付く、解決するために自分なりの目標や計画を立て、重要な事柄については、支援を受けて着実に計画実行し解決していこうとする。			
	<input type="checkbox"/> 手順やスケジュールに沿って活動することによって目的が達成されることに気付く。	<input type="checkbox"/> 学習や生活上の目的を達成するための手順や順序に気付く、身に付けた手順を利用したり、変更したりする経験を積む。	<input type="checkbox"/> 希望する活動や実現したい目標等のために、支援を受けながら計画、実行する経験を積む。				
	<input type="checkbox"/> 身近な地域の生活や家庭の生活と学習を通して、基本的な職業の種類や役割とその大まかな内容が分かる。	<input type="checkbox"/> 地域にある職業や流通等の仕組みや内容の概略と簡単な利用者の状況や働く人の工夫、苦労が分かり、憧れの職業を持つ。	<input type="checkbox"/> 家庭や地域の様子と学習した内容と結び付けて職業や役割が分かる、卒業後の進路について意識する。	<input type="checkbox"/> 産業現場等における実習の経験から自分で進路選択ができる。			
Ⅱ	<input type="checkbox"/> 希望する生活や学習を可能にするために、支援を受けながら計画し、実行する経験を積む。	<input type="checkbox"/> 希望することについて自分で簡単な計画を立て、実行しようとする。	<input type="checkbox"/> 大まかなライフステージの理解ができ、近い将来の進路や働く生活について、助言等を受けながら暫定的に設定する。	<input type="checkbox"/> 将来設計、進路希望の実現を目指した目標設定をして、その課題に取り組む。 <input type="checkbox"/> 働く生活を中心とした新しい生活を期待し、将来設計を立てる。 <input type="checkbox"/> 将来設計に結びつく進路計画を立てる。 <input type="checkbox"/> 自分の将来を暫定的に計画する。			

巻末資料 8 【キャリア発達評価表】

〇〇年度 喫茶サービス 〇さん キャリア発達評価表

キャリア発達段階表のレーダーチャート

資料 8

Early



Late



実態に基づく支援方法

実態：誰よりも意欲が強いDさん

支援（ICTも含む）

聞くよりも、見て考える方が得意であり、メモを活用し「見て書いて考える」活動を多く取り入れることで、情報の処理をスムーズに行うことができる。また、成長欲求が高く、学習に対して意欲的である。昨年度は、2回の喫茶営業を経験しており、～～～～～

接客（案内係）担当として任せる役割を明確に位置付ける。役割を明確にし、接客を繰り返すことで、客への対応に慣れ、よりよいサービス提供や臨機応変な対応力につながるようにする。接客手順は、『接客支援アプリ』で補い、ドリンク注文後のデザート説明もアプリで補うことで、～～ 『Webカメラ』で、録画した動画を「営業後の即時評価」と「事後学習での動画評価」によって、次回の喫茶営業で明確な目標を立てることができた。客との対応が慣れている様子を映像で確認することによって、自信につながるようにする。また、短焦点プロジェクタを活用した動画視聴で、他の生徒からの評価や客からの『お客様アンケート』の評価によって、接客に対する改善点を見つけられるようにしていく。

キャリアの観点位置づけ評価

月	役割	生徒自身の言葉・表情	教師評価・お客様評価	動画で見る姿	文脈（内面の推察）とキャリア発達（心理的社会的変化）
〇年〇月〇日 喫茶	接客	【サービス班に変更した当初のコメント】 緊張をしても目をそらさず、落ち着いて行動し、お客様に落ち着いて、	【教師】 ・お客様を見て、話し方を意識しながら、接客できていた。 【お客様アンケート】	【Webカメラ】 ・お客様が大勢来店した際、後から来たお客様のオーダーを先に聞いてしまったり、後から来たお客様に気付かず水を	・二つ以上のことを同時に処理することができず、大勢来店するとどう動いて良いかわからずパニックになった。 ・中学部からの質問を受けた時に、これまでの喫茶営業の様子を思い浮かべ、自分なりの受け答えができていた。（人間関係形成・社会形成能力①コミュニケーション：相手に適切な方法で気持ちや要件を伝える）

巻末資料 9 【お客様アンケート】

『やすらげる おちつける 喫茶』 それが私たちの合言葉です

本日は、Good Job喫茶をご利用いただきありがとうございます。
ご来店いただいたお客さまに、とても感謝しています。

私たちスタッフ一同、お客さまに、
『やすらげる おちつける 喫茶』を
感じていただけるよう、学んでいます。

そこでお願いがあります。
今日「Good Job喫茶」で感じた
『やすらげる おちつける』を教えてくださいたいのです。
お客様の感じたことが、私たちの活力になります。
ぜひ、熱い「メッセージ」をお願いいたします。

お客様の満足度は100点満点中何点ですか？

／ 100点

ご記入いただきありがとうございます。

当店について5段階でご採点ください。

気持ちのよいあいさつができていましたか？

Bad 1. 2. 3. 4. 5. Good



接客はスムーズでしたか？

1. 2. 3. 4. 5.



テキパキと行動できていましたか？

1. 2. 3. 4. 5.



礼儀正しく接客できていましたか？

1. 2. 3. 4. 5.



*1 おもてなしはできていましたか？ *1:目配り、気配り、心配りができ、
お客様に余計な気遣いをさせていないこと。

1. 2. 3. 4. 5.



常に笑顔で接客はできていましたか？

Bad 1. 2. 3. 4. 5. Good



資料9

お客様のご意見を大切に致しております
We Value Your Opinion!!

Good Job
喫茶

Good Job喫茶

関連ワード説明

キャリア教育

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。

児童生徒の社会的自立を促進し、人間力をつけるための教育です。社会の中でさまざまな役割を果たすことで、自分と社会を結び、いきいきと自分の人生、まさに「キャリア」を歩むことができます。「キャリア教育」は、日々激しく変化する現代社会にあって、「未来のある子どもたちが、将来をいきいきと自立的に生きていくことは大切なことだ」という信念から生まれた概念です。そして、その信念を実現するために、「学校教育と社会とを連続させることの重要性を核とした教育改革を行う運動」こそが「キャリア教育」なのです。

参考文献

知的障害教育発、キャリア教育 名古屋恒彦 東洋館出版社 2013/5/29 p7 引用
キャリア教育－自立していく子どもたち－ 渡辺三枝子 2008/3/29 p18-21引用

自立

「適切な支援条件下で、自分の力や個性を最大限に発揮してなされる取り組み」です。自立、ないし自立的な生活は、子どもの意思的側面である主体性と、その主体性を支える周囲の支援を明確にすることです。

子ども時代に目指すべき「自立」は、社会人としての自立の状態とは同じではありません。他の援助や支配を受けずに自分の力で立つという意味の自立は、最終的な目標です。子ども時代の自立とは、最終目標を目指して、必要な力と態度を徐々に発達を促していくことです。子ども時代の自立状態は、子どもの心身の発達状態と関係します。子どもの発達の速度には個人差があり、自立の仕方も子どもごとに特徴があります。一 周りの子どもと比較をするよりも、一人ひとりの子どもの日常の姿に関心を持ち、自分の力で取り組めることから取り組むように配慮することで、その子どもに必要な発達を促すことができます。

参考文献

知的障害教育発、キャリア教育 名古屋恒彦 東洋館出版社 2013/5/29 p13 引用
キャリア教育－自立していく子どもたち－ 渡辺三枝子 2008/3/29 p65-67引用

キャリア発達

社会の中で自分の役割を果たしながら、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程を「キャリア発達」と言います。

発達のアプローチはキャリア選択を選択時点の一つの「行為」から、キャリア発達という「前進する一つの過程」の一部と捉えます。人は誕生してから乳幼児期、青年期、成人期、そして老齢期を通して、その時期にふさわしい適応能力、つまり環境に効果的あるいは有能に相互交渉する能力や態度を形成します。その中で、社会との相互関係を保ちつつ自分らしい生き方を展望し、実現していく過程がキャリア発達です。社会との相互関係を保つとは、つまり社会における自己の立場に応じて役割を果たすことです。人は、生涯の中で、様々な役割を全て同じように果たすのではなく、その時々自分にとっての重要性や意味に応じて果たしていこうとします。それが『自分らしい生き方』です。また、社会における自己の立場に応じて役割を果たすことをとおして『自分と働くこと』との関係付けや価値観（キャリア）が形成されることをいいます。

参考文献

キャリアカウンセリング入門 人と仕事の橋渡し 渡辺三枝子+E.L.ハー 2001/9/10 p80引用
学校教育とキャリア教育の創造(講座 現代学校教育の高度化)
渡辺 三枝子(著), 若松 養亮(著), 鹿嶋 研之助(著), 小島 弘道(監修) 2010/8/1 p155-156引用

監修

(順不同)

公益財団法人パナソニック教育財団

金子 健 (明治学院大学名誉教授) 金村 俊治

岐阜県情報技術研究所

藤井 勝敏 窪田 直樹

日本福祉大学

渡辺 崇史

情報科学芸術大学院大学

山田 晃嗣

特定非営利活動法人バーチャルメディア工房ぎふ

篠田 義人

公益財団法人ソフトラピアジャパン

太田 秀昭

社会福祉法人郡上市社会福祉協議会

山根 麻子

編著

岐阜県立郡上特別支援学校

伊藤 史 金田麻巳子 加藤秀樹 渡辺怜奈